

国内学会

- 1)藤原正智・岩崎杉紀・清水厚・塩谷雅人・松浦弘和・稲飯洋一・長谷部文雄・松井一郎・杉本伸夫・岡本創・西憲敬・濱田篤・米山邦夫・F. Immler：熱帯西太平洋の対流圏界面領域における Cirrus の観測. (2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 2)Fujiwara, M., S. Iwasaki, A. Shimizu, M. Shiotani, Y. Inai, F. Hasebe, I. Matsui, N. Sugimoto, H. Okamoto, N. Nishi, K. Yoneyama, K. Krueger, F. Immler, and M. Rex: Cirrus observations in the tropical tropopause layer over the western Pacific (2007年5月3日 日本地球惑星科学連合大会)
- 3)浜元陽平・川島正行・藤吉康志：北海道オホーツク海側に発生する大気波動の解析-紋別に設置した X バンドドップラーレーダーによる解析. (2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 4)宮崎祐平・藤吉康志・川島正行：紋別に設置したドップラーレーダーを用いたオホーツク海沿岸の大気-海氷相互作用の観測. (2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 5)西川史朗・久保川厚：理想化 OGCM における混合層の季節変化. (2007年3月23-25日、日本海洋学会春季大会)
- 6)青木邦弘・久保川厚・佐々木英治・笹井義一：OFES データを用いた中緯度傾圧ロスビー波の解析(その2) (2007年3月23-25日、日本海洋学会春季大会)
- 7)山口裕康(北大院地球環境)・池田元美(北大院環境)・池田隆美(北大院地球環境)：Interannual and decadal variability in the Arctic Ocean responding to atmospheric variability. (2007年3/22-3/26、日本海洋学会春季大会)
- 8)櫻井 南海子・森 修一・川島 正行・藤吉 康志・大井 正行・濱田 純一・筆保 弘徳・伍 培明・佐々木 太一・田畑 悦和・Fadli Syamsudin・Emrizal・山中 大学・松本 淳：HARIMAU2006 集中観測期間中に観測されたスマトラ島における西進する降水システムの内部構造について. (2007年5月12-15日、日本気象学会 2007年春季大会)
- 9)石田明生・相田(野口) 真希・山中康裕：3次元海洋生態系-炭素循環モデルにおける熱帯・北太平洋炭素循環の経年・10年規模変動. (2007年9月26-30日、日本海洋学会 2007年度秋季大会)
- 10)川口悠介(北大院地球環境)・三寺史夫(北大低温研)：低気圧下の海氷変動に関する数値・解析的研究.(2007年3月、日本海洋学会春季大会)
- 11)山下 和也・藤原忠誠・藤吉康志：大気境界層で観測されるストリーク気流構造の特性. (2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 12)菊田元美・山下 和也・藤原忠誠・藤吉康志：対流圏下層に見られるエアロゾルと雲の層構造の観測. (2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 13)水田元太：東向ジェットと再循環からのロスビー波の放射 (2). (2007年9/26-28、2007年度日本海洋学会秋季大会)
- 14)久保川 陽呂鎮：全球・非静力学モデルを用いた対流圏界面領域の解析(2). (2007年10

月 14-16 日、日本気象学会)

- 15)阿部義子・川島正行・藤吉康志・森 修一・山中大学：スマトラ島で観測した突風現象について-Xバンドドップラーレーダーによる観測。(2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 16)森岡 浩・藤原正智：インドネシア・ワトコセにおける対流圏オゾンの長期変化。(2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 17)藤原忠誠・山下 和也・藤吉康志：ドップラーライダーで検出したつむじ風。(2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 18)久保川陽呂鎮・藤原正智・那須野智江・佐藤正樹：全球非静力学大気モデル (NICAM) を用いた対流圏界面領域の解析.2007年2月27日、第21回大気圏シンポジウム
- 19)谷本陽一：中緯度海洋水温フロントと大気境界層に関する観測的研究。(2007年3月 日本海洋学会 2007年度春季大会シンポジウム「中緯度海洋前線域における大気海洋相互作用」)
- 20)飯島 裕司・青木 茂・谷本 陽一：南大洋における海面水温の時空間変動に伴う大気場応答の研究 II。(2007年3月23日-25日、東京、日本海洋学会)
- 21)谷本陽一・甲斐浩平・時長宏樹・岡島秀樹・Shang-Ping Xie：KESS2005航海で観測された夏季黒潮続流上における大気境界層の変質。(2007年9月、日本海洋学会 2007年度秋季大会)
- 22)山本彬友・山中康裕・田近英一：PETM のメタンハイドレート崩壊に伴う大気へのメタン放出割合に対する考察。(2007年5月19-24日、日本地球惑星科学連合 2007年大会)
- 23)田村岳史・大島 慶一郎・二橋 創平・Thorsten Markus・Donald J. Cavalieri・平沢尚彦：SSM/I データを用いた南極海における薄氷厚の見積もりと fast ice の検出。(2007年11月30日、極域気水圏シンポジウム)
- 24)浜元陽平・川島正行・藤吉康志：オホーツク海沿岸に出現した波状エコーの構造と起源。(2007年12月18日、日本気象学会北海道支部)
- 25)川口悠介(北大院地球環境)・三寺史夫(北大低温研)：オホーツク海北西陸棚域での DSW の形成・輸送過程の研究。(2007年9月、日本海洋学会秋季大会)
- 26)藤原忠誠・山下和也・藤吉康志：ドップラーライダーで検出したつむじ風。(2007年6月1日、第53回風に関するシンポジウム)
- 27)藤吉康志・山村育代・南雲信宏・中川勝広・村本健一郎：異なった気候区における日最大雨滴直径の日変化と季節変化。(2007年12月17-18日、MAHASRI 国内研究集会)
- 28)甲斐浩平・谷本陽一：夏季黒潮続流域における大気境界層と下層雲の観測。(2007年8月、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会「西部北太平洋海域における大気海洋相互作用 II -黒潮続流域におけるフラックス観測-」)
- 29)渡部雅浩・古関俊也：黒潮続流域における中規模 SST 偏差が駆動する大気境界層内循環。(2007年8/29-8/31、東京大学海洋研究所共同利用研究集会)
- 30)渡部雅浩・古関俊也：黒潮続流域における中規模 SST 偏差が駆動する大気境界層内循環。

(2007年5月12-15日、日本気象学会2007年度春季大会)

- 31)甲斐浩平・谷本陽一：西武北太平洋における大気海洋相互作用Ⅱ 一黒潮族流域におけるフラックス観測一。(2007年8月、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会)
- 32)藤吉康志・川島 正行・木村慎吾・須賀和彦・大井正行・古津年章・下舞豊志：赤道大気上下結合(CPEA-I・II)集中観測期間中にみられたレーダーエコーの移動・発達・日周期特性。(2007年5月12-15日、日本気象学会2007年度春季大会)
- 33)久保川陽呂鎮・藤原正智・那須野智江・佐藤正樹：全球非静力学大気モデル(NICAM)を用いた対流圏界面領域の解析。(2007年5月3日、日本地球惑星科学連合大会)
- 34)山下和也・藤原忠誠・藤吉康志：大気境界層で頻繁に観測されるストリーク気流構造。2007年6月1日、第53回風に関するシンポジウム)
- 35)藤吉康志・植田睦之・高木憲太郎・山下和也・藤原忠誠・菊田元美：大気構造が夜間の鳥の飛び立ちと飛行高度に及ぼす影響(1)。(2007年10月14-16日、日本気象学会)
- 36)飯島 裕司・青木 茂・谷本 陽一：しらせ海上気象観測データを用いた110°E線上における大気の海洋に対する応答。(2007年8月30日-31日、大槌、海洋研究所国際沿岸海洋研究センター共同利用研究集会)
- 37)大島慶一郎・小野純・清水大輔：オホーツク海における流出油・汚染物質の粒子追跡モデル。(2007年3/22-3/26、2007年度日本海洋学会春季大会/沿岸海洋研究部会)
- 38)大島 慶一郎・若土 正暁・中野渡 拓也・小野 数也：オホーツク海中層水及びその太平洋水との交換の季節・経年変動。(2007年2月、北海道大学低温科学研究所)
- 39)小野純・大島慶一郎・水田元太・深町康・若土正暁：サハリン東岸沖の日周潮流に与える海氷の効果。(2007年3/22-3/26、2007年度日本海洋学会春季大会)
- 40)草原 和弥・大島 慶一郎：南極沿岸におけるコヒーレントな水位変動の力学。(2007年3/22-3/26、2007年度日本海洋学会春季大会)
- 41)田村 岳史・大島 慶一郎・二橋 創平：南極沿岸ポリニヤにおける海氷生産量の年々変動。(2007年3/22-3/26、2007年度日本海洋学会春季大会)
- 42)大竹秀明・川島正行・藤吉康志：日本海北部に発生する太い筋雲の維持過程。(2007年10月14-16日、日本気象学会秋季大会)
- 43)小野数也・大島慶一郎・河野時広・若土正暁：CTDから見積もられたブツル海峡における鉛直混合。(2007年3/22-3/26、2007年度日本海洋学会春季大会)
- 44)中野渡拓也・永井祥子・大島慶一郎：オホーツク海の最大海氷面積を決定する要因(2007年10月16日、2007年度日本気象学会秋季大会)
- 45)二橋 創平・大島 慶一郎・田村 岳史・齊藤 誠一：オホーツク海沿岸ポリニヤ域における海氷生産量。2007年9月26日、日本海洋学会)
- 46)二橋 創平・大島 慶一郎：夏季南極海で密接度と水温の関係から推定される海氷-海洋間熱交換係数。(2007年11月30日、極地研 極域気水圏シンポジウム)

- 47)二橋 創平・大島 慶一郎：夏季南極海における海氷－海洋間熱交換係数 ー密接度と水温の関係からの推定ー。(2007年9月28日、日本海洋学会)
- 48)重光雅仁・渡辺豊・山中康裕・本多牧生：西部北太平洋亜寒帯域"Twilight zone"における沈降粒子中窒素の分解過程とそれが窒素同位体比に及ぼす影響。(2007年9月19-21日、日本地球化学会)
- 49)萱場互起：気象衛星観測データを用いたオホーツク海高気圧時の下層雲量について 第2報。(2007年6月15日、日本気象学会北海道支部研究発表会)
- 50)青木茂・藤井信宏・牛尾収輝・吉川泰・渡邊修一・水田元太・深町康・若土正暁：ケルゲレン海台南東部における深層西岸境界流と南極周極流南部フロントの構造について。(2007年9月26日、日本海洋学会)
- 51)藤吉康志・川島 正行、木村慎吾・須賀和彦・大井正行・古津年章・下舞豊志：赤道大気上下結合 (CPEA-I・II) 集中観測期間中にみられたレーダーエコーの移動・発達・日周期特性。(2007年5月12-15日、日本気象学会 2007年度春季大会)
- 52)川島正行：寒冷前線降雨帯のコア-ギャップ構造の成因に関する数値実験(2)。(2007年10月14-16日、日本気象学会秋季大会)
- 53)小橋史明・谷本陽一・村山利幸・岩坂直人・時長宏樹・野中正見・根田昌典：冬季黒潮続流域で観測された大気境界層の構造と変動。(2007年9月、日本海洋学会 2007年度秋季大会)
- 54)時長宏樹・富田裕之・谷本陽一・根田昌典・市川洋：みらい MR07-01 観測航海における JKEO - KEO ブイ間の海面熱フラックス変動。(2007年9月、日本海洋学会 2007年度秋季大会)
- 55)谷本陽一・甲斐浩平：中緯度海洋水温フロントと大気境界層に関する観測的研究。(2007年3月、日本海洋学会 2007年度春季大会シンポジウム「中緯度海洋前線域における大気海洋相互作用」)
- 56)小橋史明・谷本陽一・村山利幸・岩坂直人・時長宏樹・野中正見・根田昌典：冬季黒潮続流域で観測された大気境界層の構造と変動。(2007年5月、日本気象学会 2007年度春季大会)
- 57)富田裕之・時長宏樹・谷本陽一：黒潮続流域における衛星大気比湿推定について(2007年8月、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会「西部北太平洋海域における大気海洋相互作用 II ー黒潮続流域におけるフラックス観測ー」)
- 58)中村尚・三瓶岳昭・後藤敦史・野中正見・谷本陽一・高谷康太郎・田口文明・謝 尚平：中緯度海洋前線帯の大気海洋相互作用と大気大循環。(2007年8月、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会「西部北太平洋海域における大気海洋相互作用 II ー黒潮続流域におけるフラックス観測ー」)
- 59)大島和裕・山崎孝治：地球温暖化に伴って極域正味降水量が増加する原因。(2007年10月日本気象学会 2007年秋季大会)

- 60)大島和裕・谷本陽一：中緯度大気海洋系 10 年スケール変動の再現性とその将来変化に関する研究. (2007 年 8 月、環境省推進費 s-5 キックオフミーティング)
- 61)大島和裕・谷本陽一：中緯度大気海洋系 10 年スケール変動の再現性とその将来変化に関する研究. (2007 年 10 月 環境省推進費 s-5-ミーティング)
- 62)谷本陽一：黒潮再循環流暖水プール上での大気の変質、(2007 年 1 2 月 黒潮続流域での海面フラックスに関する研究集会 (名古屋大学地球水循環研究センター共同研究研究会))
- 63)渡辺力：フラックス輸送に寄与する渦の姿と観測上の問題点. (2007 年 6 月 21 日、風に関するシンポジウム)
- 64)大谷義一・北村兼三・小南裕志・深山貴文・溝口康子・中井裕一郎・齋藤武史・清水貴範・高梨聡・玉井幸治・渡辺力・山野井克己・安田幸生・岩田拓記：国内温帯森林生態系の純生産量と年々変動・FFPRI FluxNet の観測結果よりー.(2007 年 9 月 21、農業工学関連学会 2007 年合同大会)
- 65)渡辺 力・井上君夫：農薬ドリフト研究への LES の利用. (2007 年 11 月 28 日、日本農業気象学会北海道支部 2007 年大会)
- 66)中村知裕・三寺史夫：オホーツク海中央部における潜り込み. (2007 年 9 月 26 日ー30 日、日本海洋学会秋季大会)
- 67)中村知裕：汐過程がオホーツク海・北太平洋間の海水交換に果たす役割の研究. (2007 年 3 月 22 日ー26 日、日本海洋学会春季大会)
- 68)三寺史夫・中村知裕：オホーツク海および北太平洋西部亜寒帯循環とそのモデリング. (2007 年 2 月 2 1 日、北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター シンポジウム「オホーツク海および西部北太平洋親潮域の中層循環の物理・化学・生物過程」)
- 69)中村晃三・藤吉康志・坪木和久・久芳奈遠美：DYCOMS-II で観測された境界層雲の数値実験その 2：バルク法による雲微物理過程のパラメタリゼーションの影響について. (2007 年 5 月 12-15 日、日本気象学会 2007 年度春季大会)
- 70)森 修一・濱田純一・櫻井南海子・筆保弘徳・佐々木太一・伍 培明・一柳錦平・川島正行・藤吉康志・橋口浩之・Fadli Syamsudin・Emrizal・松本 淳・山中大学：インドネシアスマトラ島における HARIMAU2006 集中観測結果 (概要) . (2007 年 5 月 12-15 日、日本気象学会 2007 年度春季大会)
- 71)藤吉康志：可搬型ドップラーXバンドレーダー、レーザーレーダーを用いた観測概括と今後の展開. (2007 年 5 月 12-15 日、日本気象学会 2007 年度春季大会)
- 72)藤吉康志：風と竜巻の科学. (2007 年 7 月 21 日、日本建築学会北海道支部)
- 73)久保川厚：2 層 QG モデルにおける西岸境界流の離岸と再循環 (2007 年 9 月 26-30 日、日本海洋学会秋季大会)
- 74)小野純・大島慶一郎・水田元太・深町康・若土正暁：サハリン東岸沖の日周潮流に与える海水の効果. (2007 年 3/22-3/26、2007 年度日本海洋学会春季大会)

- 75)水田元太：東向ジェットと再循環からのロスビー波の放射. (2007年3/24、2007年度日本海洋学会春季大会)
- 76)江淵 直人: Metop-A/ASCAT C-バンド散乱計によって観測された海上風ベクトル初期データの精度評価. (2007年11月2日、海洋理工学会)
- 77)江淵直人・深町康・大島慶一郎・若土正暁：短波海洋レーダおよび沿岸潮位計で観測された宗谷暖流の短周期変動について (2007年5月17日、海洋理工学会)
- 78)中村知裕(低温研)・三寺史夫(低温研)：環オホーツク圏領域気候モデル. (2007年3月、第5回HSSワークショップ)
- 79)西垣肇(大分大)・三寺史夫(低温研)：よどみ域を伴って海底斜面から離れる西岸境界流. (2007年3月、日本海洋学会春季大会)
- 80)三寺史夫(低温研)：音響トモグラフィを用いた海洋変動の観測. (2007年5月、海洋音響学会)
- 81)内本圭亮(低温研)・三寺史夫(低温研)・江淵直人(低温研)・水田元太(北大地球環境)：千島海盆の変動について--衛星高度計データの解析-- (2007年3月、日本海洋学会春季大会)
- 82)内本圭亮(低温研)・三寺史夫(低温研)・江淵直人(低温研)・水田元太(北大地球環境)：千島海盆東部の年周期変動について. (2007年8月、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会)
- 83)三寺史夫(低温研)・中村知裕(低温研)：環オホーツク圏領域気候モデル. (2007年10月、日本気象学会)
- 84)奥西武・伊藤進一・山中康裕：2次元マイワシ回遊モデルの開発. (2007年11月22-24日、水産海洋学会2007年度研究発表大会)
- 85)藤井賢彦・山中康裕：ストームが亜寒帯北太平洋の基礎生産量と大気・海洋間CO₂交換過程に及ぼす影響. (2007年7月18日、ワークショップ「大気海洋長期変動と生物応答」)
- 86)山中康裕：気象擾乱による大気-海洋系物質循環および海洋生態系の応答. (2007年7月18日、ワークショップ「大気海洋長期変動と生物応答」)
- 87)山中康裕：生態系モデルからの要求. (2007年6月15日、ワークショップ「台風通過が亜熱帯海域の生産に及ぼす影響」)
- 88)山中康裕：隔離CO₂は西部北太平洋にどのように広がるか. (2007年5月17-18日海洋理工学会平成19年度春季大会シンポジウム CO₂海洋隔離技術の進展—ケーススタディから見える有効性と課題—)
- 89)S. Lan Smith, Y. Yamanaka : New Optimality-based Model for Uptake Kinetics of Multiple Nutrients by Phytoplankton. (2007年3月22-26日、日本海洋学会2007年度春季大会)
- 90)岡頭・羽角博康・小畑元・蒲生俊敬・山中康裕：海洋大循環モデルによる希土類元素濃

度分布の再現. (2007年9月26-30日、日本海洋学会 2007年度秋季大会)

91)山中康裕：地球温暖化のモデル研究について. (2007年9月18日、日本微生物生態学会
松山大会シンポジウム「気候変動と微生物生態学」)